## 平成30年第4回田布施町議会定例会一般質問通告一覧表

質問者1 西本 篤史

※一問一答

		,
質問事項	質問要旨	質問の相手
1. 迅速な災害情報伝達について	7月にあった西日本豪雨災害では岡山、広島、愛媛で多くの死者が出た。山口県でも川の氾濫、土砂災害など多くの被害が出た。 自治体の災害情報発信手段はまちまちで被害があった24市町で「SNS」のフェイスブック、ツイッターの両方を使った自治体は11市町であった。どちらか1つが9、いずれも使わないが4であった。国は複数の「SNS」を確保するのが理想としている。主流の防災メールは事前にアドレスを登録した住民にしか伝わらない。ホームページもアクセスしないと見られない。尾道では「ライン」を利用している。1町も「SNS」の活用を検討してはどうか2災害時の自治会の役割は明確にしてあるか3指定の避難場所は適切か4ハザードマップなどは町民に浸透しているか以上質問いたします。	町長
2. これから の教育方針に ついて	近年、学校教育も社会教育も新たな取り組みが始まり町民も困惑しているのではないか。コミュニティ・スクール、道徳、英語。また、プログラミング教育。学校運営協議会においても「学力・体力・心の教育」など協議している。学力テストでは国の平均より良いと聞くが、課題は体力、心の教育ではないか。先日の「地域教育ネット研修会」ではボランティアの大切さが話されたが、地域社会に貢献する人材育成も大事ではないか。 1 指導できる教員は充実しているか 2 教育支援ボランティアは登録の何割が参加しているか 3 プログラミング教育とはどんなものか 4 来年度からの教育方針はどのようなものか 以上質問いたします。	教育長
	病的なインターネット依存が疑われる中高生が、5年間でほぼ倍増し、全国で93万人にのぼることが、厚生労働省の研究班の調査で明らかになった。調査では「ネット使用をやめると不機嫌になる」など、ネット依存に関連する8項目の質問に5個以上当てはまる、「病的な使用」の中高生は、5年前に比べて2倍近い、93万人と推計された。質問に3個から4個当てはまる人を含めると、254万人にのぼる。男子は、オンラインゲームの利用率が高く、女子は、SNSの利用率が高い。ゲーム依存症は6月にWHOが疾病にしたばかりである。町では健康保険課、教育委員会、町民一体で対策をする必要があると思うがどうか。	·

2 <b>11</b> 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
質問事項	質問要旨	質問の相手
1. 次期町長 へ希望するこ とは	6月議会で長信町長の今期限りでの引退が発表された。本当に長い間ご苦労様でした。さて、次期町長へ引き継ぎということで、ぜひ続けてほしい、または、始めてほしいなどいろいろと考えもあると思う。希望することなどあればお聞かせ願う。	町長
2. 田布施川の堤防は大丈夫か	7月の豪雨災害では本町も少なからず被害があった。となりの光市は、島田川の堤防が決壊した。本町でも9年前の夏、田布施川の関戸橋付近が決壊寸前までいったことがあった。この時は、何十台というトラックが運んできた、大型の土嚢やサイコロ型のコンクリートの大量投入で決壊を防いだ。この時の町長の的確な陣頭指揮はすばらしかったと思う。その後も各所の補強はされたろうが、本町の川の堤防は大丈夫か。また、万一の場合のトラックの手配など、今も万全か。	町長
3. 小学校の エアコン設置 の検討は	この夏の異常な猛暑を受け、周南市や下関市など周辺の自治体は、全小中学校の普通教室エアコン設置の前向き検討を始めている。政府も全国での補助を検討している。さて本町は財政難の中、町長の英断により、中学校は昨年9月より、エアコンが設置され、今年の猛暑も跳ね除け、教室内は、快適な学習環境となっている。小学校については、中学校で無理した分、財政が落ち着く数年先だと思っていた。しかし今年のような命に関わるような事態が今後も引き続きそうなので、早急な設置の検討を望む。	町長

質問者3 松田 規久夫

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
1. 住民の終	終活は行政が補い、地域が支える必要がある。しかし、主体となるの	町長
活と行政の関	は家族であろう。少子高齢化に伴い、都会では引き取り手のない遺骨が	
わり	増加している。家族や地域の繋がりが弱まっていることが大きな原因と	
	考えられる。田布施町の現状を尋ねる。	
	1. 独居老人の孤独死の件数とあれば発見までの日数は	
	2. 引き取り手のない遺骨の件数は	
	3. 電動カーは高齢者対策の好例で登録状況は、また登録廃止や登録変	
	更は	
	4. 自宅や近隣にある墓の把握は	
	5. 所有者不明の土地、家屋の発生状況は	
2. 長信町政	6月議会で町長は、今後の進退について明らかにされた。今期限りの	町長
の総括につい	理由は述べられたが、3期12年の振り返りはなかった。長きにわたり	
て	町政の舵取りをされたので、住民に総括を述べる必要があると思うので	
	質問する。	
	1. 高校跡地への移転は中止となり、耐震補強となったことについて	
	2. 国営ほ場整備について	
	3. 単独町政について	
	4. 職員数の増加について	

質問事項	質 問 要 旨	質問の相手
1. 介護職員 の不足につい て	全国の2016年度時点の介護職員は約190万人。厚生労働省の推計では、団塊の世代が全員75歳以上になる2025年度には約55万人増の245万人が必要で、対策を急がないと全国で33万7千人が不足する。 2025年度に、必要とされる介護職員数に対して確保できる見込み数の割合(充足率)の、全国平均は86.2%で100%確保できるとした都道府県はなかった。山口県は88.8%で3,709人不足すると推計されている。 担い手が適切に確保できないと、高齢者が十分な介護サービスを受けられない事態が発生する。そこで、次のことを尋ねる。 1 全国的に、介護職員は慢性的な人手不足である。本町の介護職員の現在の必要数、充足率は。 2 本町の介護職員の2025年度の必要数、充足率の見通しは。3 介護職員の不足に対応するために、どの様な対策をしているか。4 現在の介護施設の入居待ちの期間はどのくらいか。	町長
2. 中学校運動会とふれあいクリーン作戦について	毎年9月の第2日曜日に中学校の運動会とふれあいクリーン作戦が実施されるが、日にちが重なり、どちらかに参加できないと苦情がある。 奇数月の第2日曜日をふれあいクリーン作戦の日として、ふれあい活動が進められているが、不参加の場合は1,000円~2,000円の不参加料が徴収される地域も有り、どちらの出席を優先させようかと毎年町民は悩んでいる。 この、2つの行事は同じ教育委員会の所管事項であるため、部内調整ですむことであり、日にちが重ならないように早急に対応して欲しい。町民が苦痛な思いや肩身の狭い思いをされている。そこで、教育長に次の3点について尋ねる。 1 中学校の運動会とふれあいクリーン作戦は同じ教育委員会所管の行事であり日程の調整をしては。 2 予算等も伴わず町民の切実な希望が叶えられる事案なので是非改善をされては。 3 この夏は、命にかかわる猛暑といわれた。9月上旬の運動会は残暑も厳しい時節である。日程の変更も必要と思うがお考えは。	教育長
3. 中学生の通学カバンについて	今年の3月定例議会で中学生の通学カバンが重過ぎる。「如何にかならないか」と一般質問をしたが、その後の対応はどのようになっているか。 保護者から10 <sup>+</sup> 。の荷物を持って2 <sup>+</sup> 。歩いてみてと苦情があったので、荷物を持って歩いたが10 <sup>+</sup> 。の荷物は重く、2 <sup>+</sup> 。の徒歩は遠く辛く常識的ではなかった。 徒歩通学の生徒は、通学カバンと補助バッグ(ナップサック)とを合わせて10 <sup>+</sup> 。以上の大変重い荷物を最長で毎日4 <sup>+</sup> 以を持ち歩くこととなる。整形外科医は「成長段階の骨は弾力性があり、重過ぎる物を持つと姿勢に影響を与えやすい」と指摘している。子どもの成長への影響が心配。少しでも軽くできないかと保護者は案じている。生徒は重くて辛いといっている。そこで、教育長に次ぎのことを尋ねる。	教育長

- 1 新学期になり、勉強道具等の荷物はどのくらい軽くなったか。
- 2 自転車置き場は生徒の減少で十分余裕があると答弁をされている。 希望者全員に自転車通学を許可されては。

質問者 5 竹谷 和彦

※一問一答

質問事項	質 問 要 旨	質問の相手
1. 田布施中学校の天体望遠鏡の維持管理について	平成6年9月に新校舎が完成し立派な天体観測ドームが始動した。以後24年経過し、現在では天体の自動導入システムも壊れて使えず、年5~6回開催の田布施町天文同好会主催の観望会では手作業で望遠鏡操作をしている状態である。 1. 天体施設のメンテナンスの計画はどのようになっているのか。望遠鏡のコンピューターや自動導入のソフトウエアを導入する予定はあるのか。 2. 中学生が在学中の3年間に授業でドームに上がることはほとんどないそうだが、今後天体ドーム施設を学校教育にどのように有効活用していくのかをお尋ねする。	教育長

質問者6 國本 悦郎

※一問一答

質问有 0 國本	2   [允尽] 3	<u> </u>
質問事項	質問要旨	質問の相手
1. 自然災害	先の西日本豪雨で甚大な被害が出ている。特に避難勧告や避難指示が	町長
について	出ていたにもかかわらず避難できなかった人たちの人的被害も相当な	
	数に上っている。広島では、4年前に甚大な被害が出ており、その教訓	
	が生かされなかったのはなぜだろうかと思う。	
	今年、麻郷地区浜城に田布施南地域防災センターが設置された。名目	
	上は「防災センター」というが、オラレ建設のために実質上は浜城の集	
	会所が移設されたと言ってよい。	
	私の住む麻里府地区中郷では、以前豪雨の時に桜川が氾濫したことが	
	ある。川の中央にある橋桁に流木とかが引っ掛かったために氾濫した	
	と、それを知る地区の人から聞いたことがある。	
	自然災害により被災した時には、その後罹災証明書発行とかの手続き	
	要り、どうしたいいのか私を含めてほとんどの人が知らないのが現状で	
	ある。	
	異常気象や地震により、これからまだまだ自然災害についての備えや	
	災害時の行動、被災した時の対処など町民に周知する必要がある。4点	
	について質問したい。	
	① 避難準備、避難勧告、避難指示と変わっていく中で、今年の西日	
	本豪雨の教訓に学び、これまでの避難実績から住民避難の徹底は図	
	られているのか。	
	② 田布施南防災センターの場所について、そこを利用したい住民に	
	は分かり辛いと声がある。それで住民の避難行動がスムーズに行え	
	るのか。	
	③ 桜川には現在も中央に橋桁あり、老朽化している橋が現在も使用	
	されている。昨今の豪雨の被害を聞くたびに住民の不安が増してい	
	るが、改修を県に要請できないか。	
	④ もし、自然災害の被害にあったときに、どう住民は対処し、罹災	
	証明を発行してもらうか、その手順が住民に周知されているか。	

## 高齢者福祉について

人口減少の一方で高齢者の割合は高まるという。

平成25年8月、厚生労働省は「国民の健康寿命が延伸する社会」に向けた予防・健康管理に関する取組の推進なるものを発表した。それによると、様々の取り組みに対して予算が投じられることになっている。また、包括的支援事業が拡充され、認知症施策の推進が地域包括支援センターに一本化されている。軽度者介護の通所介護と訪問介護が、総合事業として介護保険から市町村に完全移行している。

他方、介護については、赤ちゃんからお年寄りまで、障害の有無にかかわらず、誰もが一緒に身近な地域でデイサービスが受けられる、いろんな介護施設と障がい者施設の共生型福祉施設や学校の施設と高齢者施設を一体化する等、異なる世代の交流の取り組みが広がっている。それらを踏まえて、6点について質問したい。

- ① 健康寿命延伸のために健康な体、心、食事に関して保健センターは、 高齢者に対してどんな具体的な取り組みをしているか
- ② レセプト・健(検)診情報等のデータを活用した取り組みはどうか、 また、特定健診とがん検診の同時実施による受診率向上によるがん の早期発見に努めているか
- ③ 後発医薬品の使用促進は図られているか
- ④ 若年性認知症も含めて地域包括支援センターは、認知症に関してど んな具体的な取り組みをしているか
- ⑤ 軽度者介護の通所介護と訪問介護が、総合事業として介護保険から 市町村に完全移行したことにより、サービスの質低下の懸念が出て いるが、それはないか
- ⑥ 介護場面では、異なる世代の交流の取り組みが効果を上げていると聞く。いろんな介護施設と障がい者施設の共生型福祉施設を推進や、空き教室を使った学校(保育園・幼稚園)の施設と高齢者施設の一体化は図れないか

町長 教育長